

看護師が勤務開始時に初めて受持つ患者の情報収集に 閲覧する電子カルテ項目の傾向

看護学部

○准教授 ^{たかみみき} 高見美樹、助教 ^{なかにしえいこ} 中西永子、教授 ^{いしがききょうこ} 石垣恭子

キーワード

看護師、電子カルテ、情報収集



研究概要

厚生労働省による令和2年度の医療施設調査によると、電子カルテシステムの導入率は、400床以上の一般病院の91.2%と報告されています。電子カルテシステムには、病院を受診する患者の診療に関連する様々な情報について記載されており、看護師は受診・入院時に収集した患者情報、収集した情報に基づいて立案した看護計画、実施した看護とその反応について電子カルテシステムに入力しています。また、入院病棟では、看護師は1日2~3交代制勤務で患者の看護にあたるため、自身の勤務時間帯に実施した看護、患者の反応などを電子カルテシステムに入力することで、看護師同士や他の医療従事者との情報共有に役立っています。病棟勤務の看護師は、日勤帯では平均5.8人の患者を受持ち、看護を実施します。その受持ち患者について、勤務に必要な情報を収集するために20~60分の時間を要しており、始業前に患者情報を収集する前残業が課題となっています。

そこで本研究では、電子カルテシステムを用いて、勤務開始時に看護師がどのように患者情報を収集しているのか明らかにすることを目的としました。研究の実施に際しては、兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科倫理委員会の承認を得ました(承認番号UHGSAL-2018-02)。研究では、看護師の熟達度による情報収集の違いを検証するために、模擬患者の情報を入力した調査用電子カルテシステムを準備し、パソコンに視線計測器を設置(図1)、情報収集をしている看護師の視線の動きを記録し(図2)、分析を行いました。その結果、情報収集に要する時間は、新人看護師が長く、ベテラン看護師は必要だと考える情報を選択するために多くの画面を切り替えて情報収集を行っていました。また、看護師の熟達度によって注視している情報項目や範囲に違いがありました。



図2 調査時の様子



図1 電子カルテシステム画面の様子

アピールポイント

看護師が勤務開始時にその日に受持つ患者情報の収集について、視線計測器を用いて分析を行いました。その結果、看護師の熟達度によって注視している情報項目などに違いがありました。今後、さらに研究を進めることで、電子カルテシステムにおいて、看護師が短時間で必要な患者情報の収集を支援する機能の開発に役立つことが期待されます。